

◆平成22年度入学者選抜試験講評

○一般選抜前期試験

【前期試験の基本的な姿勢】

大学で求められる基本的な学力を念頭に、センター試験とは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を簡潔にまとめる力や自分の考えを要領よく的確な英語で表現する力を問う。単なる知識を問うのではなく、例えば、未知の語彙を文脈の中でとらえるような、文脈の中で内容の展開を考えられる力や英単語を英英辞典の定義で捉えられる力を問う。また、英検2級程度の基本的なリスニングを問う。

英語の試験ではあるが答案の中で日本語の力を見ることができ問題をめざしている。

リスニングを課している理由としては、入学後の Native Speakers of English とのスムーズなコミュニケーションを期待できることがあげられる。

[キーワード：記述中心主義、長文主義、文脈、わかりやすい日本語表現、英語以外の教科との連携]

【英文採択についての留意点】

長文の内容としては、世界的な視野でとらえた内容を持つ英文、文化的比較を含め幅広く文化に関するもの、社会性のある話題を含んだもの、様々な問題意識を喚起する内容を含むものを出题する。科学・歴史・地理・文学・文化など文系理系を問わず様々な分野から総合的に判断して、英文を出题する。

【答案作成に関する留意点】

- (1) 文章全体のテーマを意識して読めているか。
- (2) 問題になっている箇所だけを読んでいないか。その箇所だけでは精開を導き出せない問題をめざしている。
- (3) 文章の流れをとらえているか。
- (4) 英文の構成を意識して書いているか。(英作文)
- (5) パラグラフの構成を意識して書いているか。(英作文、英文での要約等)
- (6) わかりやすく自らの言葉(日本語)にする。書いた答案の読み返しができているか。
- (7) 「日ごろからの」徹底した読解力をつける経験を積んでいるか。(日本語においても、英語においても)

【答案の特徴と助言】

【1】

昨年度と同様に「正確に英文を読み取る力」と「読み取った英文を意味の通る日本語で表現できる力」の2点を確認することを意図して出题した。「英文の英語(単語・熟語・構文・文法)」及び「設問の英語」のレベルは高校3年間で学習するレベル内に抑えてあるので、設問・英文ともにじっくりと読めば、「読み間違い」(解釈の間違い)が生ずることがないと思われる。

しかし、実際には、語彙知識や文法知識の不足に起因している間違いが多く見受けられた。また、それぞれの設問で「何が問われているのか」、「何を答えればいいのか」が把握できていない受験生が多くいたようである。

以上のことから3つの学習課題が考えられる。①なお一層、語彙知識や文法知識を向上させることが必要である。②設問をじっくりと読み、その設問で「何が問われているか」をしっかりと理解して、「適切な解答」ができる訓練を行う。③普段から新聞や書籍に積極的に目を通し法律・経済・異文化理解・国際関係等に関する背景的知識を養っておくことも大切である。

設問 1

設問 1 は、第 1 段落に書いてある指示代名詞の“this”が言及している内容を英文中から読み取る問題である。“this”が言及しているのは前文の“Once you～these shops.”である。この前文の英文は高校 3 年のレベルの英語で書かれているが、“customs”を「習慣」と（正解は『関税』）また“duty”を「義務」（正解は『税金』）と誤訳している解答が多く見受けられた。語彙力をさらに増強していくことが必要と思われる。

設問 2

この設問では、「EU 内でどのような貿易システムが構築されているか」が書いてある箇所を英文中より見つけ、そのシステムの内容を説明することが求められている。

設問には単純に“within EU, goods imported～member countries.”の箇所を和訳すれば解答できる。しかし、“goods”や“imported”や“duties”の訳がわからないために正確な解答ができていない答案が多く見受けられた。やはり、語彙力の不足が心配される。また、EU ではなく、NAFTA や ASEAN に関しての説明を書いている解答もいくつか見受けられた。設問において何が問われているかをさらにしっかりと把握する訓練が必要であるように感じられた。

設問 3

この設問では、第 3 段落の英文から、「日本の稲作農家が政府から経済的な援助を受ける理由」を見つけることが求められている。第 3 段落で“support”というキーワードを捜していくと、最後の箇所で“**They need this support because～**”と“support”が必要な理由が書かれた文章が見つかる。難易度は高くない問題である。

設問 4

この設問では、第 5 段落の英文から「日本では、コンビニエンスストアが何に置きかわったか？」を英語で答える問題である。したがってキーワードは“convenience stores”と“replaced”になるが、この 2 つの語を捜していくと“**The variety stores～replaced by convenience stores.**”という受動態の文が見つかる。したがってこの箇所に“convenience stores”が置きかわったものが書かれている。キーワードに沿って英文を読んでいけば、解答が見つかる難易度は高くない問題である。

設問 5

この設問では、第 6 段落から「コンビニエンスストアやファストフード店の増加により何が失われたか」を英文中から見つけ、英語で答えることが求められている。したがってこの設問のキーワードは“lost”になる。そこで設問 4・5 同様に“lost”を捜して行くと、“**The sense of community and diversity by family-run restaurant is now mostly lost.**”という文が見つかる。この問題もキーワードを探しながら読解度を行えば、解答が自ずと見つかる問題である。

設問 6

この設問では、第 7 段落から「ウォルマートの近くにある多くの店が閉店に追い込まれ理由」を英文中から見つけ日本語で答えることが求められている。この問題に解答するためには、第 7 段落をしっかりと読まなくてはならない。ただやはり“reason”というキーワードがあり、この語が含まれている英文が解答となる。

設問 7

この設問では「ほとんどの日本人がしたがっていないこと（行いたくないこと）」を英文中から見つけ日本語で答えることが求められている。この問題も第8段落をしっかりと読まないとは解答できない。しかし、やはりヒントとなるキーワードはある。それは“unwilling”の反意語の“willing”である。このように、英文読解問題への解答を行う上では、キーワードをしっかりと把握することが大切なスキルとなる。

【Ⅱ】

試験開始から 40 分経過後、全体で 15 分から 20 分ほどの時間をとっている。

全体的に正答率が昨年よりも上がっていた（約 70%）。問題文を予め読んでおき、ポイントを意識しながら英文を聞くということによって解答し易くなるはずである。しかし、問題の出題形式によって正答率が極端に下がる受験生が少なからずいた。

第一部は T か F の記号で答える問題であるが、これを○と×で答えている受験生がいた。問題用紙だけでなく解答用紙にも T か F の記号で答えるよう指示をしてある。答案の作成においては不注意なミスがないようにして頂きたい。

【Ⅲ】

男女の言葉遣いの違いについての英文である。

設問 1 の選択問題は約 50% の正答率であった。英文の内容と話しの流れも理解する必要がある。したがって、問題箇所だけを見て正解を選ぶことはできない。例えば、(3)では、to 不定詞が続く tend を選んだ受験生が多かったが、これでは話しの流れと合わなくなってしまう。

設問 2 は並べ替えの問題であるが、約 40% の正答率で、得点に差がついた問題であった。英文の構造と英語表現の知識の両面が問われる問題である。

設問 3 の正答率はかなり高かった。Why を用いて理由を問われたときは、Because S + V + で答えるのが自然な流れになる。しかし、because を使った受験生が意外に少なかった。

設問 4 は英文和訳の問題であるが、約 40% の正答率で、得点に差がついた問題であった。特に (い) の英文の意味を理解していた受験生は少なかったようだ。woman が主語であり、may think と (may) be surprised が and で結ばれているという構造である。これを見抜けないと解釈は難しくなる。昨年も指摘したが、一般に、英文和訳の問題では、単語の訳し間違いよりも、構文の取り違いや理解不足の方が大きく減点される。したがって、「取りあえず何か日本語を書いておけば点数がもらえるだろう」と期待しても、得点に結びつかない。学問に王道なし。日頃の学習の積み重ねを大切にしたい。

【Ⅳ】

この数年、同じような形式の問題が出題されている。そのためか 70% 以上の得点をした受験生が多かった。しかし、20% 以下の得点をした受験生も少なからずいたので、差が極端に開いた問題である。

答案作成にあたっては、指示に従うことが必須である。本問題の場合は、書き方の指示<Instructions for Paragraph Writing>を守ることが最低限の要件である。トピックの gap year については、自分がやりたいこと、計画、目的などを整理して、書き方の指示に従い、文法的な間違いをしないよう気をつけながら書くことが大切である。このとき難しい単語や表現をあえて使う必要は無い。分かり易く、ミスの無いように書くことが秘訣である。

何か英文を書いておけば点数がもらえると期待しても、指示に従っていないと得点できないのは明らかである。